

北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第8回 北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日 時：平成20年11月20日（木）午後1時30分～
3. 場 所：北杜市役所 東館特別会議室
4. 出席者：
（委員）小澤龍一・小泉 徹・堀内 弘・藤原香代子・中澤功允・三井善成
小尾隆一・原 誠・中山英毅・原 堅志・秋山治雄・小宮山英人
小澤三月・由井峰雄・大島正道・日向 勝・武井美恵子

（事務局）小林教育次長・進藤教育総務課長・伊藤学校教育課長・中込学校教育
担当リーダー・野牛嶋教育総務担当リーダー・野口教育総務担当
日向施設担当
5. 議題 1) 資料の確認
2) 小学校適正配置について
3) その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：1名

— 13時32分開会 —

（教育総務課長）開会に先立ち互礼をしたいと思います。

— 互礼 —

（議長：小泉副会長）本日も傍聴希望者が1名おりますがよろしいでしょうか。

（委員全員）異議無し

— 傍聴者1名入室 —

（議長：小泉副会長）資料の確認を事務局お願いします。

（事務局）先に御送付いたしました、「第7回の会議録」と「平成20年度
現在小学校通学区域図」ですが、現在の15校の小学校の通学区域

を色分けしたもので、人数等については前回の表と照らし合わせて頂き参考としてください。

(議長：小泉副会長) 御質問等ありますか。

(委員全員) 質問及び異議無し。

(議長：小泉副会長) 2番目の「小学校の適正配置について」に入らして頂きます。ご意見ありますか。

(委員) たたき台として私の案を提示いたします。「高根町を南北2校、小泉小を泉小か小淵沢小のどちらかと統合する」「長坂町の日野春・秋田・長坂の3校を1校に統合する」これで9校ですが、武川筋2校は非常に細長くこれを1校にしてしまうのは私には判らないので議論をお願いします。

(議長：小泉副会長) 具体的な案が出た訳ですが、今後こういった形で議論を進めて行ったら良いか御意見ありますか。

(委員) 私も先ほどの委員の案に賛成です。私は武川出身ですが今までの議論の中では、小学校は心のふるさと、コミュニケーションの場とか、運動会・授業参観とか道徳教育、体協への参加、小学校は密であります。やはり小学校は各町に1つは欲しいと思っています。

先日「北杜市自主防犯団体連合会」を立ち上げ、子どもの安全安心を最優先しようと言う事でまとまりました。その中で小学校が遠ければ、親も含めて防犯の面でも先ほどのご意見が良いのかなと思います。武川・白州は非常に長いのでそう言う面からも1つは残して頂きたい。

(委員) 確かに1町1校は小学校の場合は大切だと思いますが、現状維持が可能かどうかそれが出来るのでしょうか。

(委員) 今日は通学区域の議論かと思います。現在各町に1つ以上学校はある訳ですが、1つの所も通学区域の変更をするのかどうか、と言う所から入って行けば議論がしやすいのではないのでしょうか。

長坂を例に取れば4校を1つにするのかと言う所から入れば、議論しやすいのではないかと思います。

(議長：小泉副会長) 前回通学区を見直すと言うところまで行ったのではないかと思います。

(事務局) 通学区域の見直しをするではなく考えて行く、と言う議論だったかと思います。ですから皆さんで御協議して頂く事かと思いますが、この審議会を立ち上げた目的は適正規模という事ですので、やはり統廃合は考えて頂きたいと思っています。

財政的な事や適正な人数規模の上に立って、ご検討を頂きたいと考えています。

(委員) 地域の様々な関わりを取り入れながら教育を展開してきた訳です。また、地域に学校があったから地域の発展が図られてきた事が

出発点からですが、出来得る事ならば各町1校くらい残していただけたら有り難い訳ですが、そうなると1学年2クラス以上1クラス20人以上と言う適正規模がある訳ですが、それに合わせると当然1校残せなくなり、また4kmの通学距離からも離れていく訳ですが、通学区域の見直しをしていく中で、1つの学校の通学区域を2つの学校に振り分けるような地域割りをしないで、心の通った通学区域を検討して頂ければなと思います。

(議長：小泉副会長) 通学区域の見直しについては、前述の委員さんは学校ごとに地域割りを考えていくと言う事ですか。

(委員) 適正規模を作るためにはどうしてもその所を考えていかなければならないと思います。旧町村に1つであれば、ある所は本当に小さい学校で行かなければならない訳です。

もう一つ適正規模を柔軟に捉えて頂き、それに縛られない事かと思えます。

(委員) 最初の委員さんの案もいいなと思います。今まで議論して来たのは教育的な面から見ての適正規模を議論してきた訳ですが、それが北杜市の現状にあっているかは別かと思えます。住民感情から言っても、あせって武川と白州を統合するような議論にはならないかなと思います。例えば長坂の場合にも耐震の問題もある訳ですが、場所的にも固まっているので、具体的な物にしていく必要があるのかなと思います。

(委員) 旧8町村に1校が基本なのですが、高根は2校あっても良いのかなと思って出した案ですが、小泉小が長坂との結び付きが強いならそれも十分考えられる訳です。具体的にはその地区の人に聞いて見なければ判らないのではないでしょうがそれを核にして、通学区域の見直しが出てくるのではないかと思います。

具体的には須玉町の旧津金小学校区ですが、独立的な歴史があるわけですが、須玉に行くか高根に行くかの議論はあると思います。

(委員) 全国色々な統合の様子を調べてみますと、地域の住民の意向・思いが強く反映されているなど感じます。北杜市の場合も、おそらく住民の思いが全面的に出てくると思えます。

それでは全然前進しないので、私としては旧町村に1校という意見が前回からも出ていますので、将来の青写真として「望ましい」という形で持って行くのが良いのかなと。そこに一気に持って行く事は出来ないので、まずは、境になるような所の今の学区を複合学区にして、選択制にするのも1つの方法かなとも思えます。その中で最終的に旧町村1校にまとまっていくのが良いのかなとも思えます。

その際には積極的に行政の方で旧町村の地域の融和を図るような

施策を平行して実施していかないと、住民の同意を得られないのではないかと思います。

(委員) 前述の委員の意見に賛成です。私も自分の子は自分の町の学校に通って欲しいなどと言う希望ですが、高根のような南北に広い校区は2校にしても良いのかと思いますので、現在の通学校区を尊重し結果的に8町に1校になっていけばいいのかなと思います。但しその前に「小中学校の諸条件を考慮する」と言うハードルを設けて進めていけば良いのかなと思います。

(委員) 私も小学校は旧町村に1校が良いと思います。やはり高根は広いので上と下に2校、長坂は小泉小と泉小または、小淵沢小と一緒にと言う意見もありますが、やはり地域性がありますので長坂校区でと言う希望があるのをお伝えします。

(委員) 1町1校は理想的なのですが、色々なパターンがありますので、親の都合かもしれませんが通学キロ数で考えていくとか、安全安心を優先して考えていく事が大事かと思います。

(委員) 様々な意見が出ています。「現状維持で良い」のかと言うところからは抜け出していると思いますので、今度はグループ別に分けて議論しては如何でしょうか。

(議長：小泉副会長) 意見を一通り伺ってからにしましょう。

(委員) 最初の委員の意見はなかなか良いのですが高根が2校は判りますが、小泉小を抜いたとしても、長坂が1校では適正規模からすれば大きすぎるのではないのでしょうか。

(委員) 私も1町1校は良いなど考えていましたけれど、皆さんの意見を聞くとまだまだはっきりと結論は出ていません。

(小澤会長) 資料の図面に捕らわれてしまうと、結論は出ないだろうと感じています。私は長期・中期・当面の三段階の枠組みの中で考えて行かなければならないだろうと思います。現在と10年後の生徒数を提示して頂いたという事は、当面と中期的な展望で判断して行くべきであろうと理解します。長期的になりますとかなりドラステックな意見もあろうかと思いますが、中期的・当面的な観点に立った時はある程度妥協した姿が可能かなと思います。

長坂を例に取ってみると、中期的には2つになっていくと思うのですが、長期的には1つになっていくだろうと思います。例えば仮に秋田小学校を例に取ってみれば、小泉から通う生徒よりも五町田方面から通う生徒の方が近いだろうと思います。直線距離にすると1.5km位だと思います。旧町村の枠組みに捕らわれずに地勢的・地形的な要因を加味した弾力性を持った線引きが可能かと思います。長期的な方向性を見ながら中期的な段階までも方向付け出来ないかなと考えています。中期的な答申までしっかり出していかなければ

ならないだろうと感じています。

(議長：小泉副会長) 一通り意見を聞いた訳ですが、通学区域の事についても色々な意見もありました。

(委員) この審議会は何を目的にやるのかとお伺いしたとき、北杜市の適正規模という事をお聞きしましたが、中期展望を入れるとなると、10年後の生徒数が加味されるのかという事ですよね。最終的には通学区域を見直さなければならない事は、皆さん御理解しているところだと思いますが、その通学区域を変えるときは10年後になるのか、何時になるのかという事だと思います。

段階的と言う事であれば大鉦を振るわずに、通学区の見直しを考えていきたいと思います。

(委員) 平成21年3月までの答申という事ですが、具体的に何処と何処が統合するのが望ましいという答申を出した方がよいと言う事ですよ。

(事務局) 審議会設立当初に統廃合を審議してくださいとお願いしましたが、但し平成21年3月に答申を頂きこれを中期・長期として頂き、例えば耐震は中期でやりましょうとか、人口的な観点からは長期的な答申をして頂けたならば良いなと思っています。

(議長：小泉副会長) 時間的なゆとり、段階的にかの意見が出た訳ですが、話を進めるために前述の委員のグループ分けで審議するというご意見が出ましたが如何でしょうか。

(委員) 何処かで線を引きましょうとなるとなかなか引けないから、配置となるとさらにそうは行かないと思いますので、グループ分けして議論したら如何と提案しました。

(議長：小泉副会長) ワークショップ的と言う事ですね。

(委員) 長坂町の花水が白州に入った前例があるように、地形的な要素が絡んでくると思います。逸見の台地を考えると長坂が1つになるか2つになるか、高根の西小・東小を1つにしてみたらとか、そうして地域の意見を聞き、長坂の何処かに行くか話し合っていくと言うような。地域別に分かれて議論したら如何でしょうか。

(委員) 長坂に、例えば答申をしたら、行政側として議論の提供を長坂地区に説明する準備はありますか。

(事務局) 区長会、8つの中学校区の説明会の中でも試案と言う形で地区の方に提案する準備はあります。その中でも賛否が出るとしますので、調整していきたいと思います。

(委員) 冒頭の案に補足しますと、かなり最終段階の話なので、先ほど会長が話された様に、いきなりそれではなく中間段階もあるのかなと思っています。

(委員) 小学校の場合は小規模のデメリットがずっと少ないと思います

ので、1町1校という話が出ていると思います。その上に立って学区をどうしたらいいのかを住民に聞くとか、調査をして答申を出す方法があると思います。

(委員) 各地区の説明会の様子の中でも、地元の方はこのままの小学校では行けないだろうなという事は、感じていると思います。ここにいる委員さんの中で3つか4つにグループ分けをして議論しては如何でしょうか。

(委員) 賛成ですが、中学校の事も合わせてグループ分けをして議論出来ればなと思います。

(委員) 1町1校が最終的になってしまうと、適正規模の20人に矛盾してくると思います。将来的には6校を見据えて、その中間点で8校があっても良いと思います。具体的には高根、長坂地区にぶつけていくというのは如何でしょうか。

(委員) 前述の委員の今の発言そして前の御意見納得できます。事務局にお聞きします、10年後の姿を見て論議していると思ってきた訳ですが、ワンクッション置いて5年後、10年後以降の姿を想像して判断して宜しいでしょうか。

(事務局) 教育委員会としても10年後の姿はこうだ、しかし審議会の中でその手前の段階はこうですよとの部分があっても良いと思います。要するに10年後はどうなるのかと言う形が見えていて、そこまで行くには段階的にいきますよ、という答申でもかなりアピールできるのではないかと思います。10年後の姿をお知らせする事によってやり易くなるのではないかと考えます。更にその間3年後、5年後の姿が見えてくれば更に良いのかなと考えています。また中学校についても同様です。

(委員) その前提ですと、10年後以降は6校が妥当ではないかと思えます。その前提として現状の旧町村の通学区域は取ってしまうような覚悟でやらなければ、平成29年以降の生徒数を見ると6校でも多いかなと思えますが、妥当の学校数かと考えます。

(議長：小泉副会長) 今までの流れと違って、中期的とか長期的とかの事が出てきますから、会の進め方もありますので議長交代を含めてここで10分ほどの休憩に入ります。

—休憩—

(議長：小澤会長) 今日は遅れて申し訳ありません。

今日の会議が一番ヤマ場だろうと思っている訳ですが、お話を伺って見て、私も前述の委員とほぼ同じ考え方です。通学区域を旧町村と前提せずに弾力的に見直していかなければならないだろうと思

っています。

明治5年に学制が公布された時、全国でこの北巨摩が一番学校建設の情熱に燃えていました、建設率、就学率が最高でした。しかも男尊女卑の強い時代の中でも、女性の就学率が全国でも最高でした。

その当時の村の人々の知恵は、小学校を村の真ん中に作ろうという事が知恵であろうと思います。しかし当時は海拔900m～980m以上は恩賜県有林であり、家は無かった訳です。開拓でそこに家が出るまでは居住区域ではなかった訳です。そう言う事を前提にして学校づくりが成されてきました。

こんにちでは、1,400mの所まで居住するようになって、広大な領域を前提にして考えなければならないのと同時に、学校をスクラップ&ビルドして良いのかと言う問題が出てくると思います。つまり現在ある学校を全部壊して、新たに作り直す訳にはいかないと考えます。今ある学校を活用しながら通学区域を考えていかなければならないだろうと思います。それを補うべき物は交通機関であろうし、住民の協力しかあり得ないと思います。北杜市民のおおいなる志と知恵を借りなければこの審議会は成り立たないだろうと考えています。

前述の委員の御意見ははもっともだとは思いますが、次に審議する中学校を視野に入れた上で、グループ分けごとの議論をしていかなければ、議論がダブリあってしまうと思われます。そこで先ほどの委員のご意見をたたき台にしてまとめさせて頂ければありがたいと考えますが如何でしょうか。

(委員) 私も先ほどの委員のご意見に賛成です。

(委員) 段階的に進むという事であれば良いと思います。

(議長：小澤会長) 平成30年度頃には北杜市全体では段階的に6校を目指して行くと言う事で良いですね。

(委員) はい。

(委員) 具体的な名称を出すとおかしくなるので、今の様に6校と言う形で目指していけば、良いのではないのでしょうか

(委員) 6校というか、6つ位の中学校区を想定していくように捉えて頂いた方がよいと思います。6つの中学校区で行くのだと言うのはかなり向こうの事だと捉えてください。

(議長：小澤会長) 北杜市全体で6つの中学区制と言う意味ですね。

(委員) そうです。具体的にも考えましたがここでは差し控えます。

(委員) 具体的な焦点に絞るのはまだ難しいと思います、ただ旧町村の学区制を引きずっていたなら正規の学校は作れません。250人規模の小学校が非常に活性化されていますが、10年後にはほとんど無くなります、ですから単純計算すれば学校数は6校となってしまい

ますが、それでも足りない位ですので、そういう数字的な事も頭に入れて検討して頂きたいと思います。

(委 員) 将来的に何校になるのかを考えると、常に規模の問題と、通学距離、安全安心と言う相反する事を頭に入れて置かなければならないと考えます。もう一つ、小学校と中学校の小規模のデメリットが違うという事も頭に入れて置かなければならないと思います。

(委 員) 中学校区の確認をさせてください。

(議長:小澤会長) 旧町村の枠組みを弾力的に運用していく中学校区という事ですね。

(委 員) あくまでも先を見通して6校位でどうかという数字です。中期的には各町1ないし2校で行き、そうすればこれまで積み重ねてきた委員さん方の意見が活かされるし、最終的な目的が1町1校ではない訳ですからそこもクリア出来るのではないのでしょうか。

(議長:小澤会長) 軸の所は旧町村の学校区で噛み合っているけれども、それに拘らずに旧村の線引きをもっと弾力的に運用していく中学校区だと思います。

(委 員) 私も前述の委員の意見に賛成です。今までの議論の中で3つの基本があると思います。1つは、現在の通学校区を尊重する。2つ目は、小中学校の適正規模が配慮された、通学区域の見直しが望まれる。3つ目は、但し小中学校を取り巻く諸条件に十分配慮する。この3つが大きな柱になるのかなと思っています。

(委 員) 冒頭に旧町村に1校という話しをさせていただきましたが、適正規模を前提に市民の方に問題提起をすると言う事に異論はないのですが、小学校とはどういう学校かと言いますと、地域に非常に根ざしている、15校が8校になるだけでも十分問題提起している訳ですが、地域に支えられたり、地域を土台にして学んで行くところがありますので8と言う数字を出さして頂いて、1学年2クラス、1クラス20人以上と言う適正規模がありますので、そこから新たに学区を見直して行くのも方法かなと思います。

(議長:小澤会長) 中期的な展望と現在の展望の間には当然落差が生じると思います。ので、そこを踏まえながら委員さん方は御理解頂けるとと思います。

(委 員) 中学校が6校とか、小学校が8校とか最低でも1町1校位の話を持って行って、その辺から議論していかないと前に進まないのではないのでしょうか。

(委 員) 保護者の立場として子供が第一なので、子供達が環境の良い状態で地域の中で育っていくような場所を作れるように、全ての事に柔軟性を置いた形で保護者が対応しなければいけない気持ちでいっぱいです。学校内の中でも色々な話を聞きますし、距離的にも安全安心が第一だと思いますが、安全を確保して頂けるなら保護者の方に

説明もしていきます。

(議長:小澤会長) 前述の委員から提案のありましたグループ分けの討議は次回からで如何かと思いますが。

(委員) 簡単に考えていくとすぐまとまる訳ですが非常に難問題ですので、時間は掛かるでしょうが、あの手この手で議論をしていく必要があると思います。

(議長:小澤会長) 3グループという事を仰っていましたが、その場合組み合わせについてはどんなご意見をお持ちですか。

(委員) 中学校の事も頭に入れて議論して行かなければならないので、同じ地域の方が集まったグループ制にする事によって、地域制を捉えた議論をして頂きたい。

(議長:小澤会長) という事は、釜無筋、逸見筋、塩川筋と言うような形で3グループと言った形ですね。

(委員) 賛成です。

(議長:小澤会長) 次回は事務局で配慮頂いて、中学の適正配置も踏まえた形で会を進めたいと思います。そこである程度まとめたいと思いますが、10年後を見据えた場合には前述の委員がお話しされた事に合意は出来ると思いますが、現在15の小学校がある訳ですが、それをどのような形で運営しながら、そこへ繋げて行くのかと言う所のご意見を頂きたい。

(委員) 10年後を考えた時。通学距離等を勘案したときなは6校だと少し無理があるのではないかと考えます。

(議長:小澤会長) 6校に限定する訳ではないですが、6以上と言う事に実質的にはなると思いますが。先ほど住民調査という意見が出ていましたが、委員如何でしょうか。

(委員) これから住民調査をして、また審議会にかけるのでは時間が足りないし、また混乱してしまうのではないのでしょうか、審議委員の意見で進んで良いと考えますが如何でしょうか。

(議長:小澤会長) やはり審議委員は各界・各層の方々の代表者でありますから、かなり良識あるお知恵で審議して頂けると思いますので、住民調査までしなくても方向付けをしても良いのではないかと、その答申の上に立って教育委員会や議会が具体的な検討に入っていく、と言う方向性で如何でしょうか。

(委員) 具体的になった時点での学校や地域に対しての情報発信については、答申の前にもあった方がよいのではないのでしょうか。

(議長:小澤会長) 情報公開の時代ですから、どんな場合でも住民に対しては適切かつ十分に公開していく事は当初からの確認でありますから厳守して頂きたい。

(委員) 当面旧町村に1ないし2校という事で進めばよいのでは。ただ、

その時に私の意見としては、学区が接しているような所はどちらの学校に通学しても良いような緩やかな選択制があっても良いのかなと思っていますが如何でしょうか。旧町村に1ないし2校というのをはっきり出してしまっても良いと思いますが。

(委員) 旧町村に1ないし2校であって、旧町村で纏まって1という事では無いですね。旧町村に1ないし2校は残したいと言う意見で纏めておけば、学区によっては、旧町村を超える事もあり得る訳ですよ。先ほどの案のように小泉がどちらかに行くという事もあり得るという事ですよ。

(議長:小澤会長) 「当面は旧町村に1ないし2校が望ましい」という意見で宜しいですか。これを前提にしますと高根と長坂は2校を目指すということになっていくわけですが。

(委員) 須玉町の増富地区もある訳ですから、慎重審議すべきかと思いません、高根の場合にも清里地区がありますから。他の町は現行のままと言う事になる訳ですが如何でしょうか。

(議長:小澤会長) 長坂・高根・須玉が具体的な数値を上げるとそれに向けた目標数値が定まってくるけれども、その辺のニュアンスは如何でしょうか。

(委員) 小泉小が町村を越えるかという問題と、清里小、増富小の特殊事情の問題が出てくる訳ですが。

(議長:小澤会長) これは、通学区域の弾力的な仕組み作りというような表現で如何でしょうか。

(委員) 増富小学校の件ですが須玉町の場合は保育園が一番南の端の穂足にあります。それは地域、保護者の賛同を得て移転した訳ですので、ですから10年後は増富小学校は無くなると思います。

(委員) 私は大なり小なり通学区を旧村単位ではなくて、解消していきたいと思っていました。そこが一番大きな問題だと思います。学校を1校、2校にする事は後から付いてくる事であって、旧町村の枠組みを取る方が非常に大変だと思います。

今回どういう形で明文化していくのかは判りませんが、旧町村の枠組を変更していくのが望ましいのではないかと思います。

中・長期的な考えがあると思いますけれども、既存の小学校を1校ずつ残して、そこに人をどう集めていくかという事が重要になってくると思います。その為には、旧町村の枠を取らなければならないのでは無いでしょうか。そこの所の議論をお願いします。

ここは、10年後・20年後に問われてくる所ですから、北杜市はどうあるべきかを踏まえて、地域という物を作り替えていかなければならない所だと考えています。

(委員) やはり議論が元に戻ってしまうのですよね。前進するには暫定的

な物を作っていかなければ、結論は出ないと思います。会長さんの方から議論の方向性を付けて頂けたらと思います。

(議長:小澤会長) 学校の数を数値的に言いますと、語弊がありますがけれども、文章的に言うと「旧町村の通学区域を廃止する事を前提にする」というご意見に異議はありませんか。

(委員) それは直ぐにという事ですか。

(議長:小澤会長) 将来的にと言う事です。

(各委員) 了承

(議長:小澤会長) 次に「旧町村ごとではなく生徒の実態に見合った弾力的な通学区域を今後設定していく」それに応じて「当面は旧町村に1ないし2校以上を維持していく」と言う表現。そして「平成30年度にはさらなる見直しを行っていく」と言う形では如何でしょうか。

(各委員) 1ないし2校以上の表現のところを議論しては如何でしょう。

(委員) 1ないし2校では。具体的には長坂と高根ですよね、2校以上には、しないと言う事で如何でしょうか。

(委員) 1ないし2程度という表現では。

(委員) そこは逃げない方が良いのではないのでしょうか、きつい言い方かもしれませんが、それだと当初から例外を認めてしまう事になると思いますので、議論の土台としてですから曖昧さは残さない方が良いでしょう。

(議長:小澤会長) 最初の文言は記録に残してもらって、その「1ないし2云々」の所は、次回議論させて頂くと言う事でよろしいでしょうか。

(各委員) 異議無し

(委員) 次回の地域別の会議は冒頭から開始するのでしょうか。

(議長:小澤会長) 前半の1時間を中学校の適正配置と、小学校の最後の詰め。そして後半の1時間をグループ討議という形で如何でしょうか。

(委員) もし1時間で議論が纏まらなかったら延長もあり得るという事ですか。

(議長:小澤会長) 4時が4時半になる可能性もあります。そこも弾力的にお願いします。

それでは次回の日程を事務局お願いします。

(事務局) 12月は定例議会がありますので、開催しませんので1月15日(木)でお願いします。

事務局で学区が入っている図面を2枚用意しましたので、年末年始に御考え頂き、次回の参考として持ち寄って頂きたいと思います。

(小泉副会長) 皆さん長時間お疲れ様でした。様々な御意見が出ました。やはり学校が心のふるさと・コミュニケーションの場所だと言う意見も出ました。新しいふるさとを作っていく、新しい町作りをしていくとなると難問題だなと改めて思いました。しかし峠の方も超えられそ

うな気がして参りました。もう一頑張りですので、皆さん心を1つにして審議して頂けたらと思います。どうもご苦労さまでした。